

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年5月号 通巻29号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ためフンに集まる昆虫たち

そして、それを狙うタヌキ



タヌキのフンの中にあつたコブマルエンマコガネ。写真でははっきり見えないが、胸の部分に凹凸があるのがオスの特徴。フンの採集地は東京都中野区。

タヌキのフンの内容物を調べるためにフンを水洗いすると時々奇妙なものが出てきます。東京タヌキタイムズでもこれまで何度か紹介してきました。しかし、昆虫がまるごとそのまま出てくることはめったにありません。

ある時、フンの中から何やら大きめの固い物体が現れました。脚がついていることから昆虫であることはすぐにわかりました。そして固い翅を持つことから甲虫類であることも明らかでした。

ためフンは昆虫の宴会場

この昆虫の正体はすぐにわかりました。その名は「コブマルエンマコガネ」。都会では珍しくない種類で、フンや死体を食べる昆虫です。フンを食べる昆虫はまとめて「糞虫(ふんちゅう)」呼ばれ多くの種類がありますが、ファーブル昆虫記に登場するフンコロガシ(スカラベ)が有名ですね。実は、コブマルエンマコガネがフンから出てくるだろうことは

以前から予想していました。というのも「赤坂御用地に生息するタヌキのためフン場利用と食性について」(手塚、遠藤、2005年)という論文で、タヌキはためフン場に集まる昆虫を食べていること、その昆虫の中にコブマルエンマコガネがいることを知っていたからです。

タヌキは決まった場所でフンをします。これはフンを食べる昆虫にとっては食べ物探しの手間が省ける便利な場所になります。そのためフンを食べる昆虫が集まり、さらにそのような昆虫を食べる昆虫もやって来ます(例えばハサミムシ類)。そして、集まってきた昆虫をタヌキが食べている、というわけです。タヌキもあちこち昆虫を探し回らずにすみ、楽ができます。うーむ、なかなか良くできた仕組みですね。

ためフンはタヌキの行動範囲を他の個体に示すためのもの、とされていますが、それだけではなく自らが食べ物(フンに集まる昆虫)を食べる場所にもなっているようです。

よくかんで食べましょう

それにしても7mmほどもある大きな昆虫が完全な形でフンの中から出てくるのはかなり珍しいことと言えます。たいていは脚、翅などのぼらぼらのパーツになってしまうものだからです。断片化したパーツから昆虫の種類を調べるのはかなり難しいことです。

タヌキはよく噛まなかったのか、それともあわてて飲み込んでしまったのでしょうか。そのおかげで昆虫の正体が簡単に判明したわけですから私にとってはありがたいことなものでした。でもやっぱり、よくかんで食べなさい！と言いたくなってしまいます。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>